



おおにしだより

第33号

平成26年 3月13日
発行所：栃木市立大平西小学校校長室

雪とけて 村いっぽいの子ども哉

小林 一茶

一茶の故郷は雪国です（長野県北部の北国街道柏原宿）。雪が解けて春が到来するのを、ことに野外の遊び場を失った子どもたちは、千秋の思いで待ち受けます。待ちに待った雪解けとともに、家々からは一斉に子どもが飛び出し、村いっぽいに子どもがあふれます。こんなにも子どもが多かったのかと思うくらいに・・・・。歓声をあげながら、子どもたちは遊びます。雪国の春の甦りを、それらの大郎、次郎たちが象徴します。



弥生3月。日の出の時刻は日一日と早くなつて、冷たい空気の中で、光を浴びると春を感じます。寒さに耐え、やがて気が満ちて大地が目覚め、万物が呼応して、生きとし生けるものが、花や鳥や草木も山も川もが、いのちの姿を現します。自然は、生きる知恵を無言のうちに教えてくれます。

玄関横のロウバイ 木々の蕾や草花の芽がふくらんでいるように、子どもたちも、学年の仕上げと新年度への期待に夢をいっぱいにふくらませて活動しています。いよいよ一年間の締めくくりの時期となりました。希望の春の訪れとともに、来る3月18日には卒業式が、また、24日には修了式が行われ、本年度の教育活動を終えることになります。

最高学年の6年生は、学校生活のあらゆる場面でリーダーとなり、学校の顔として期待に応える活躍をしてくれました。1年生も学校生活に慣れ、あどけなさの中にも自信あふれる言動が数多く見られるようになりました。2年生から5年生も、学年の発達にふさわしい成長ぶりを見せててくれています。どの学年の児童にとっても、学年末は学校生活の節目となる、極めて重要な時期です。一年間の生活を振り返り、残りわずかとなった3学期の学校生活を精一杯過ごせるように励ましてまいりたいと考えます。



長なわとび大会

心に太陽を持て

過日、校長室で6年生とお別れ会食をしました。「中学生になったらこんなことを頑張りたい」と、一人一人が自分の夢や希望を話してくれました。私からは、卒業の餞として、栃木市名誉市民の文豪山本有三先生の作品『心に太陽を持て』を紹介をしました。

6年生に「勇気を失うな。くちびるに歌を持て。心に太陽を持て。」という言葉の意味を質問したところ、だれもが真剣な表情で考えてくれました。最後の「心に太陽を持て」については、太陽の輝き、暖かさ、明るさ、情熱、大きな心、健康的、何物にも動じない、・・・・。6年生は太陽のイメージを次々に発表してくれました。

私は、卒業する6年生の児童たちに、自分の可能性を信じて、「太陽のような大きな心で、明るく、爽やかに、力強く、そして、どこまでも優しく、たくましく生きていってほしい。」と、お話ししました。短い時間でしたが、6年生児童は皆、大平西小校長の「最後の授業」として真剣に耳を傾けてくれました。

絆を深め、精一杯に生きる使命!! 『命』に関わる教育の充実に努めます。

未曾有の被害に見舞われた「東日本大震災」の発生から三年が経過しました。死者15884人、行方不明者2633人(H26.3.10現在)。今なお、故郷を離れて避難生活を余儀なくされている方々が、26万7419人もいらっしゃいます。改めまして、犠牲者のご冥福をお祈り申し上げますと共に、心よりお見舞い申し上げます。また、一日も早い復興と、皆様のご健康・ご多幸を、心よりお祈り申し上げます。本校では、3月11日に半旗を掲揚し、巨大地震が発生した午後2時46分に、児童・教職員が1分間の黙とうを捧げ、弔意を表しました。

今、日本中の誰もが、深い悲しみや苦しみを乗り越えようと、必死になって生活しています。人と人が『絆』を深め、共に助け合い、励まし合い、支え合うことが大切です。大震災が残した教訓をかみしめ、本校では防災教育・防災管理の徹底に努めると共に、「与えられた生命」「支えられて生きる生命」「自分らしく生きる生命」「他の生命を支えることができる生命」など、『命』に関わる教育の充実に努めてまいりたいと考えます。

6年生に最高のプレゼント

1～5年生のがんばりが実を結び、感動のフィナーレで大平西小が一つに！！

2月26日（水）「6年生を送る会」が開かれました。大平西小の最高学年としてがんばってきた6年生。本当にご苦労様でした。この6年生に最高の思い出をプレゼントしようと、1～5年生の在校生たちは、心を一つにして、一生懸命取り組んできました。

「全体会1」では、6年生への感謝の言葉、くす玉割りを行いました。「イベントタイム」では、1年生によるクイズ、6年生の似顔絵、人間知恵の輪、西小思い出クイズ、6年生へのプレゼント贈呈（色紙、メダル）など、盛りだくさんの内容でしたが、あっという間に時間が過ぎていきました。最後に「全体会2」を行い、在校生からは「世界に一つだけの花（替え歌）」の歌発表が、6年生からも合奏「花は咲く」のお返しがありました。



プレゼントの贈呈



花のアーチをくぐり退場

そして、感動のフィナーレ！！ 在校生が作る花のアーチの下をくぐりながら退場していく6年生たちの笑顔が、とても印象的でした。

在校生の6年生への感謝の気持ちと、それに応える6年生との交流を深めることができた素晴らしい会となりました。どの学年もがんばりましたが、特に、5年生は実行委員として立派な活躍ぶりでした。「チーム

揮してくれました。一人一人の子どもたちの人間的な温かさ、優しさ、そして、たくましさに充ちた、幸せいっぱいの「6年生を送る会」となりました。

心を込めて奉仕作業 6年生のがんばりに感謝

本日「お世話になった大平西小学校に感謝しよう。」「卒業を前に、きれいな学校にしよう。」を合い言葉に、6年生が奉仕作業を行ってくれました。

あるグループは、風の影響で校庭から昇降口のドアレール溝に運ばれてしまった砂を、きれいに除去してくれました。また、別のグループは、特別教室の水道掃除や棚の整理整頓、体育館の窓拭きなど、心を込めて行ってくれました。お陰さまで、見違えるほどきれいになりました。

卒業を控えた6年生の皆さん、大平西小のために本当にご苦労さまでした。立つ鳥跡を濁さず！！ 皆さんががんばりに、心から感謝いたします。

安全な登下校のために・・・

「通学路」の見直しが今後の課題

学校は、心身の成長段階にある子どもが集い、人と人との触れ合いにより、人格の形成をしていく場です。子どもが生き生きと学ぶことができるためには、学校という場において、子どもの健康や安全の確保が保障されなければなりません。

本校では、地域社会全体で子どもの安全を見守る環境が整備され、PTA、育成会、自治会、キッズステーション等、実際に多くの方々にお世話になっております。また、本年度から新たに、「登下校見守隊」が発足し、8つの自治会から、217名もの皆様にご協力をいただきました。この一年間、一件の事故・事件もなく、子どもたちは皆、元気に登下校することができました。関係各位のご尽力に対しまして、心より厚く御礼申し上げます。

しかし、本校の通学路の中には、交通量の増加やガードレールの未設置、見通しの悪い道路、狭い歩道等のため、児童の安全確保が十分でない危険箇所もあります。

「通学路」は、各学校が、児童生徒の通学の安全確保と教育的環境維持のために指定している道路を言います。通学路を決める際には、教職員が実地調査をし、①交通量、②交通安全施設の整備状況、③川、がけ、工事現場、踏切等、危険箇所の有無、④道路の状況⑤交通規制等について、警察署、交通安全協会、道路管理者、交通指導員、地域の関係者の意見を求めて検討する必要があります。

先日、地域の方々から、「本校の通学路を見直したほうがよいのではないか。」との貴重なご意見をいただきました。学校では、ご指摘いただきました通学路を再点検いたしましたが、早急に対応策を考えなければならないことが明らかになりました。

そこで、地域代表の方のアドバイスをいただきながら、PTA会長、関係の育成会長、自治会長、登下校見守り隊代表者、それに本校教職員で、通学路に関する話し合いを行いました。

①下皆川1・2、②富田2・3・4、③中央町・富田1の三つのグループごとに、「通学路の現状と課題」「通学路の検討」について協議しました。道路の工事完了が3月末までかかる箇所がある等、それぞれの通学路で大きな問題点のあることを確認することができました。中には、育成会総会等で話し合いを持っていただけるとのご意見もありました。地域住民からのご意見なども参考にして、今後も通学路に関する話し合いを継続して行うことを確認いたしました。

お忙しいところ話し合いにご出席いただき、誠にありがとうございました。